

平成 29 年 10 月 18 日

エコロジカル・キャンパス推進委員会
各 位

エコロジカルキャンパス推進委員会
(企画部会) 委員・学生委員会担当
観光産業科学部准教授 大島順子

出張報告

(「第 11 回 HESD フォーラム in 立命館大学」)

平成 29 年 10 月 7 日～8 日立命館大学で開催された第 11 回 HESD フォーラム in 立命館大学にエコロジカル・キャンパス学生委員会メンバー3 名と引率教員 1 名で、口頭による事例報告を行うために出張（研修）してきましたので、ご報告いたします。出張に対するご理解と貴重な機会を与えて頂いたことに、深く感謝申し上げます。

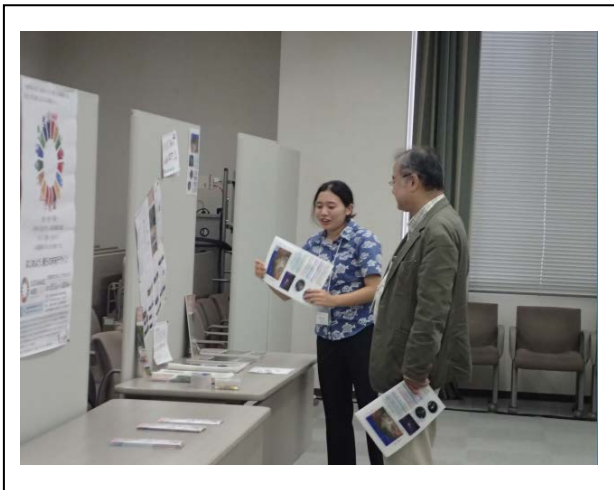
今回の出張は、学生にとってエコロジカルキャンパス学生委員会の活動を客観的に分析し、発表スライドの作成と口頭発表という体験を通して、多くのことを学ぶ機会となりました。また、聴講者である他大学の教員との質疑応答や他大学の学生委員会との交流は、今後の活動に対する重要な示唆を得ることに繋がったようです。

添付の学生の報告に目を通して頂き、今回の出張を通した学生一人ひとりの成長と学生委員会活動の役割を確認して頂ければ有り難く存じます。今後とも学生委員会の活動へのご支援並びにご指導のほど宜しくお願いいたします。

以上

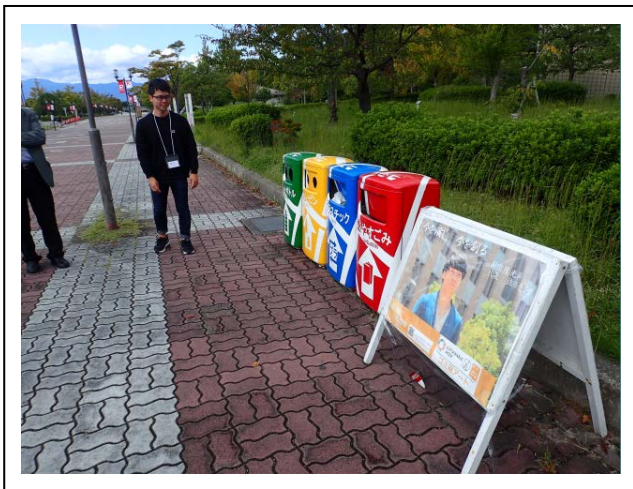


エコキャン学生委員会メンバーの発表の様子



会場のブースで活動を説明する学生委員会メンバー

会場での集合写真



立命館大学びわこくさつキャンパスでのキャンパスツアー

第 11 回 HESD フォーラム in 立命館大学 参加報告書

教育学部 生涯教育課程
子ども地域教育コース 3 年次
152711 J 具志堅彩音

1. はじめに

私は琉球大学エコロジカルキャンパス学生委員代表として、10 月 7 日（土）、10 月 8 日（日）に立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて行われた、第 11 回 HESD フォーラムに参加した。そこで私たちはエコロジカルキャンパス学生委員会の活動を報告するとともに、見えてきた課題、今後の展望を他大学の学生や先生にまとめて発表した。また、立命館大学や京都大学の学生の活動発表を聞いて、比較することで私たちの新たな課題が見えてきた。

2. 事例報告

報告会では、エコロジカルキャンパス学生委員会が 2017 年度前期、メンバーが増えたことによるどのような活動を行ったのかをスライドを用いて発表した。2017 年度はプロジェクト数を増やし、メインに活動しているクリーンキャンパス大作戦、キャンパスエコツアー、フォトコンテスト、広報、企画 1 班、2 班の 6 つのプロジェクトの活動内容と活動の効果をそれぞれ発表した。そして、その他の活動としてエコプロ 2016 への出展、環境報告書の表紙作成、エコ検定の推進、東京大学や 2016 年度の HESD フォーラムにおける学生交流についても発表した。これらを踏まえた今後の課題として、「プロジェクトの活動への一般学生の参加が少ない」ことや「メンバーの主体性に差がある」などについて言及した。これらを克服する案として、メンバー各々が活動に参加し、活動を楽しみ、魅力を発信していくことを考えた。そして、今後の展望として、メンバーの増加による「活動規模の拡大」と「創造的な企画の提案」を挙げた。学部や学年を超えてからメンバーが集まっていることを活かすことができれば、エコロジカルキャンパス学生委員会の活動の可能性をもっと広げることにつながると考えたからだ。発表を終えて、金沢大学の松本先生から「活動内容だけでなく、それを通して自分自身がどう感じたか、変化したかを伝えることで、より活動の魅力を伝えることができる」という助言をいただいた。あまり意識していなかった視点であったため、自分自身と向き合うということを改めて考えさせられたとともに、これからのエコロジカルキャンパス学生委員会の活動発表において、私たち自身の主観、学びを積極的に発信していこうと決めた。そうすることで、「プロジェクトの活動への一般学生の参加が少ない」という課題への解決にもつながると考えた。

また、立命館大学の学生の発表を聞いて、私たちは行動力、実戦力が欠けているこ

とに気付かされた。立命館大学は、「Sustainable Week」を開催し、学校全体を巻き込んで活動を行っていた。その背景には直接企業に企画の説明をして協賛をいただいたり、新しくできたサークルをターゲットに「Sustainable Week」への参加を促したりなど、広い範囲にわたって直接足を運び、協力、参加を募っていた。このことから、私たちの行動力や実戦力のなさを痛感した。大規模な活動を行いたいのであれば、それなりの熱意とつい意思を持って行動することが大切なのだと学んだ。

3. おわりに

第11回HESDフォーラムでは、全体を通して「Sustainable Development Goals (SDGs)」がキーワードとなった。SDGsはこれからの世界を変えるためにかかげられた17つの持続可能な開発目標である。貧困やエネルギー、平和など様々な視点から世界を変えていこうと試みている。私たちエコロジカルキャンパス学生委員会もSDGsを意識した活動をこれから行っていきたい。

第11回 HESD フォーラム in 立命館大学 参加報告書

理学部 海洋自然科学科化学系

163319J 上地美有

1. はじめに

今回、私たちは琉球大学エコロジカルキャンパス学生委員会の一員として、10月7日（土）、10月8日（日）に立命館大学で開催された、第11回 HESD フォーラムに参加しました。私たちはそこで、エコロジカルキャンパス学生委員会の前期の主な活動と、その成果、改善点の報告をさせていただきました。

2. 事例発表

一日目と二日目の前半は、各大学の教員が自分の所属している大学のESDへの取り組みについての現状報告をしていました。

学生がESDの科目を取りやすいように、授業のカリキュラムを見直したり、教科書の改善をしたりと、私たちの見えないところで先生方は様々な工夫と、努力をされているのだなと感じました。

また、ESDについて指導できる教員が少ないこと、いかにESDに関心のある教員を集めることができるかが課題であると述べている方もいて、私たちエコロジカルキャンパス学生委員会と同じ悩みだなと思い、参考になりました。

二日目の後半からは、各大学の学生の活動報告になりました。

京都大学の皆さんは、活動の基本に「SDGs」（国連が定めた「持続可能な開発目標」）を達成することを目標としていました。一人一人が自分の気になった項目について調べたり、実践してみたりと、今年の夏から活動がスタートしたばかりで人数も少ないため、できることが限られている分、みんなで話し合っって深く話を掘り下げられるところが、少人数での利点だなと感じました。

立命館大学の皆さんは、10月1日（日）～10月6日（金）に「Sustainable Week」という学生が企画し、一般の学生や企業を巻き込んだイベントについての報告でした。ここでもSDGsの項目から好きなものを一つ選んで、自分たちの好きなように取り組んでもらうイベントでした。「エコ」ではなく「サステイナブル」な社会、エコはエコでも、環境面だけでなく経済面や社会面でも持続可能な社会を目指すことが大事だと述べていました。

私は、このイベントの一般の学生の巻き込み方がとても素晴らしいなと思いました。エコへの関心はあるけれど、活動に取り組む機会がなかなかない。そんな学生を気軽に参加させ、かつ自分たちに何ができるかを考えてもらうため、受け身の参加ではなく主体的に活動してくれる。しかも、双方に利益があるような仕組みが取られていました。まさにサステイナブルなイベントだなと感じました。



この日は、私たち琉球大学エコロジカルキャンパス学生委員会の発表の日でもありました。授業の単位化によるメンバーの増加に伴い、昨年よりもプロジェクトの数が増え、既存のプロジェクトも充実しているという成果と、メンバーのやる気の差や、一般の学生の参加が少ないという改善点の報告をしました。

この発表の後に、他大学の先生方から、「うちもリ・リパックの回収率が低い」という声を沢山頂きました。ですが、やはり「うちではリ・リパックの回収は当たり前」という方もいらっしゃいました。その大学では、ゴミ箱の隣には必ず回収ボックスがあるのだそうです。やはり、回収しやすい環境づくりが大事だなとおもいました。

3. おわりに

今回の HESD フォーラムで、活動への一般の学生の巻き込み方がとても参考になるものばかりで、私たちの考えに共感してくれる人を探し出して引き込めるように広報の仕方の見直しや、もっと主体的に参加できるイベントづくりをしていきたいなと思いました。

また、立命館大学さんの「Sustainable Week」でカレーを販売する際に、リ・リパックの容器で販売していたそうなので、琉大祭でもすぐに取り入れられるのではないかと感じました。

活動が以前に比べて活発化してきてはいますが、まだまだ改善すべき点は山ほどあります。琉大生のエコの意識を高めて、それが当たり前な環境づくりのために活動していきたいと思います。

1. はじめに

10月7日(土)と10月8日(日)の二日間にわたり、立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催された2017年HESD(Higher Educational Sustainable Development)フォーラムに参加しました。琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会(通称:エコキャン)の代表として、その活動内容を報告してきました。パワーポイントの作成にあたり、エコキャンの活動の目的の再認識、活動の成果を知りました。また、私たちの発表では、企画1班の風鈴と企画2班リリパックを分かりやすく説明するために、立命館大学にペットボトル風鈴とリリパックを持ち込み、披露しました。発表では、彩音さんと美有さん、私でスライドを分担して発表しました。発表についての質問でリリパックの回収率について盛り上がり、京都大学の学生にも興味をもっていただき、良いプレゼンができたと思いました。

2. 10月7日(土)について

初日は主に教職員の話を聞きました。望月敬之さんのプレゼンでは、SDGsの項目17のパートナーシップから大学と住民と企業と行政が各々の役割における協力の重要性を再認識しました。また、SDGsには含まれていない日本固有の少子高齢化問題なども共に考えていくことが大切だと気付きました。立命館アジア太平洋大学(APU)のFaezeh MAHICHI博士と松本隆太さんのプレゼンでは、留学生を含んだ環境活動を行うことで、世界規模の環境問題について考える良い機会になると感じました。また、留学生の参加により南北問題や異文化体験といった点で視点が広がり世界規模での協調性も学べると思いました。その点で留学生の多い琉大もその長所を生かし、エコキャンの活動にも留学生を巻き込み活動できると良いと思いました。また、APUの学生達は事前学習として関心をもった地域の資料などを読みこなし、テーマを決めてから活動に移り、活動した後も事後学習として、各々のグループがディスカッションを行うことで、グループ間の情報を共有し次回に生かすというプロセスがしっかりしていました。その点でエコキャンもこのプロセスにそって活動一つ一つを丁寧に行っていくべきだと反省しました。大島順子先生のプレゼンではESDに興味を持つ学生と職員をいかに集め、組織化し、継続していくかが重要だと訴えていたことから、確かに副専攻の授業においても先生達の温度差を感じたことがあったため、生徒だけでなく、教授も環境教育におけるモチベーションを大切にする必要があると感じました。この日は、発表の後、交流会があり、京都大学の学生4人(上田知弥さん、岡島未奈さん、小谷和也さん、澤田大和さん)と環境について話げできました。京都大学では2か月前にSDGsを実行するために岡島さん達の団体を設立し、岡島さんは災害、小谷さんは福祉、澤田さんは樹木といった各々が環境について全く別の視点から興味を持っていました。今のところ本などを読み十分な事前調査を積んで、これから活動に入っていくとの事でした。

3. 10月8日（日）について

翌日は主に学生の発表でした。京都大学の学生達の発表では、具体的に、リサイクル工場見学を通してこれからのリサイクルの課題とSDGsの17の項目について可能なかを実践してみたということについて発表してくれました。リサイクルについては、利便性は良いが複合リサイクルパックはリサイクルしにくいということ、またネットが普及していく中で、リサイクルパックを店までもっていくかどうかというこれからの懸念について示唆していました。SDGsの項目については、必要とされている防災用具を全て持ち避難することは、むずかしいという事も伝えていました。京都大学の学生がこれからの社会全体について広く考えている一方で、エコキャンの活動は主に琉大内の狭い範囲のことなので、社会規模での環境問題意識が低いと感じました。私は二日目の発表で、特に立命館大学のサステナビリティウィークについてのプレゼンに感心しました。立命館大学の学生達が企画したサステナビリティウィークというイベントはSDGsの17の項目を多種多様なサークルを巻き込んで実行していく活動のことです。そのイベントは大学内だけでなく、市町村の住民にも参加して頂いたという事を聞き驚きました。その点で、エコキャンは学内の活動に限定せず、規模を広げ、立命館大学のように地域も巻き込んで活動すべきだと感じました。立命館大学のこの取り組みについて、「なぜ環境問題について、興味を持たなさそうなサークルを巻き込むことができたのか」という質問をしたところ、「SDGsに取り組む事の利点と自分の熱意を相手に伝え、共通の目標を持つことが大切」という答えをいただきました。また、そのコツとして、歴史ある団体は幹部の意思をくみ取ること、新しい団体は活動する場所が少ないため、広告のチャンスをアピールすることができるといった点を利用することを知りました。そして、同様にエコキャンでもイベントに興味ある学生を探すのではなく、「いかに興味をもってもらうか」、「いかに参加してもらうか」ということを大事にすべきだと思いました。そして、立命館大学の学生からだけでなく、他の大学の活動も参考にすべきだと思いました。その後のキャンパスツアーではサステナビリティウィークのために作成したゴミ箱に感心しました。そのゴミ箱は立命館大学のミュージカルサークルによりオシャレにペイントされたものでした。ミュージカルという華やかなサークルがSDGsという目標を共有してくれたことも驚きでしたが、ゴミ箱には燃やせるゴミではなく、燃やすごみと書かれ、その隣にはプラスチックと書かれたゴミ箱が置かれていることにも感心しました。確かに、燃やすごみにはプラスチックも燃えるので入れる人がいる可能性があります。しかし、プラスチックと燃やすごみに分類することでプラスチックを燃やすごみに入れる人は減らすことができます。このフォーラムで学んだことをこれからのエコキャンの活動に生かし、来年のフォーラムではどこかの大学に参考になる活動報告をしたいと思います。